

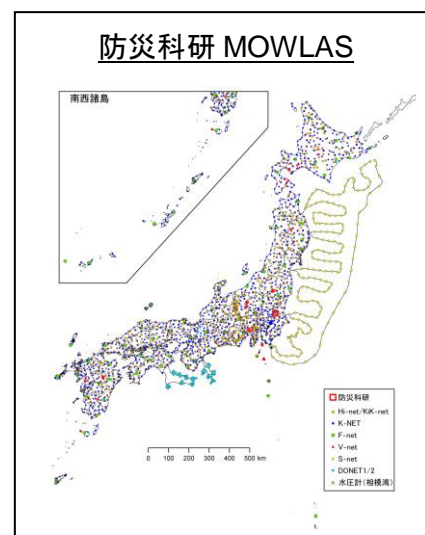
第228回地震予知連絡会 重点検討課題

「日本列島モニタリングの将来像」について

コンビーナ 東京大学地震研究所 小原一成

1. 背景

日本列島周辺では、度重なる地震・火山・津波災害を教訓として、これらの地球現象を正確に把握し、災害予測の評価に資するため、防災科研の MOWLAS に代表されるような世界屈指の広範囲で稠密な地殻活動観測網を整備してきた。その結果、当初の目的を達成しつつ、深部及び海溝付近の低周波微動をはじめとする様々なスロー地震の発見など、サイエンス面でも多大なる貢献を果たしてきている。一方、近年の技術開発により、これまでと比べると格段に超稠密な観測データなどが得られつつある。



2. 課題と論点

2-1. 現状の課題の整理

- ・ 日本列島周辺における地殻活動モニタリングに関する現状の課題は何か、その課題解決のために何が必要か。
- ・ 現在のモニタリングは有効に機能しているか、どこまで継続可能か、その後の継続のために何が必要か。

2-2. 新たなモニタリング

- ・ 今後、どのようなモニタリングを行うべきか、そのモニタリングを実現するためにはどのような技術が必要か、その実現に向けた見通しはあるか。
- ・ 今後のモニタリングを支える体制、仕組みはどうあるべきか。
- ・ 新たに開発される観測技術を定常観測に取り入れるためには何が必要か。

3. 報告

- ① 陸域地殻変動モニタリング展望 国土地理院 畑中雄樹
- ② MOWLAS をはじめとする地震観測の現状と展望
防災科学技術研究所 青井真
- ③ 海域地震・地殻変動観測の将来像 東京大学地震研究所 篠原雅尚
- ④ 内陸地震発生場解明のための稠密地震観測 (0.1 満点地震観測からわかったこと)
九州大学 松本聡
- ⑤ 光ファイバーケーブルを用いた DAS 観測ー地震学での利用ー
東北大学院理学研究科 江本賢太郎